

令和 4 年 6 月 28 日現在

機関番号：32696

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K17488

研究課題名（和文）社会的ハイリスク母子への周産期支援スクリーニングシートの開発

研究課題名（英文）Development of screening tool to identify social high risk pregnant women

研究代表者

水野 真希 (Mizuno, Maki)

駒沢女子大学・看護学部・准教授

研究者番号：60547181

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は行政機関で母子保健に携わる保健師や助産師の社会的ハイリスク妊婦の特定方法と支援の実際について明らかにすることである。研究対象者は5つの行政機関で母子保健に携わっている保健師や助産師9名にインタビュー調査を行った。行政機関によりスクリーニングシートの内容が異なり、地域の特性も踏まえた内容が含まれていた。しかし、スクリーニングシートのみでは特定が難しく、支援にあたる保健師や助産師の経験値や観察点が大きく影響していた。地域の特性を生かしつつもリスクを特定するための標準化した指標の作成は必要と考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今回の調査で、社会的に支援の必要な母子とその家族は増加していく中、行政機関で働く保健師助産師の役割はますます重要になってくる。しかし、社会的ハイリスクの母子を早期発見するために行政機関で使用されているスクリーニングシートには課題があり、またマンパワー不足が常態化している。縦割りの部署となり、複雑な背景を持つ家族への支援が、様々な部署で行われていることから、情報がつながらず支援が途絶えてしまう可能性も示唆された。妊産婦と子どもへの支援をコーディネートする人材を増やし、他部署と連携しながら包括的な支援が提供できるよう、行政機関での支援体制の見直しは必要と考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify how to identify and support social high-risk pregnant women of public health nurses and midwives involved in maternal and child health at government agencies. The subjects of this study interviewed nine health nurses and midwives involved in maternal and child health at five government agencies. The contents of the screening sheet differed depending on the administrative agency, and the contents were also based on the community characteristic. However, it was difficult to identify using only the screening sheet, and the experience points and their observer's point of regard had a great influence. It is necessary to create standardized indicators to identify risks while making the best use of a community characteristics.

研究分野：母子保健

キーワード：母子保健 社会的ハイリスク 保健師 助産師 包括的支援 虐待

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

WHO(2005)の報告によれば、世界で毎年おおよそ 870 万人の女性が意図しない妊娠(unintended pregnancy)をしており、年間 430 万人を超える女性が中絶医療を受けている。意図しない妊娠(unintended pregnancy)は、希望していた時期より早すぎるもしくは遅すぎる妊娠(mistimed pregnancy)と望まない妊娠(unwanted pregnancy)に分類されている(Santelli J et al 2003)。海外の調査報告によれば、意図しない妊娠により出産した女性は、望んで妊娠した女性よりも貧困に陥りやすく、親子関係や、夫婦関係にネガティブな影響を及ぼす可能性が指摘されている。また産科的な合併症を引き起こしやすく、母親の精神的負担も大きく、出生した子どもも低体重児や心理面の脆弱さ、健康障害が報告されている(Crissey SR 2005)。日本においては、2015 年に行われた予定外妊娠の実態調査によれば、予定外で妊娠し出産した女性は全体の出生の 23%であった。また、予定外妊娠をした女性の 85%は予定外であったが妊娠したことに喜びを感じていた。しかし望んで妊娠をした女性より、周産期合併症リスクは 3 倍以上高く、母子の愛着係数は有意に低い値となっていた。その背景には、未婚や不十分な支援体制、経済的問題が関与していた(水野 2015)予定外妊娠をした女性を含む社会的ハイリスク妊婦への支援に対する認識は高まりつつあるが、標準化された方策はなく、各々の行政機関や産科医療機関に委ねられている現状がある。このため、社会から見過ごされたまま地域で母子は生活することになり、母子の心身への健康リスクを強める可能性がある。

本研究では、全ての社会的にハイリスクな母子に標準化された継続的な支援が提供できるよう、行政機関で母子保健に携わる保健師や助産師の社会的ハイリスク妊婦の特定方法と支援の実際について明らかにすることで、母子が退院後も継続的な支援を受けられる支援システム構築のための一助とすることを目的とする。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は行政機関で母子保健に携わる保健師や助産師の社会的ハイリスク妊婦の特定方法と支援の実際について明らかにすることを目的とする。

### 3. 研究の方法

研究期間は 2019 年 2 月 1 日から 2020 年 5 月で、研究対象者は 5 つの行政機関で母子保健に携わっている保健師や助産師 9 名とした。調査方法は、行政機関の施設長に研究協力を依頼し、同意が得られた機関に所属する保健師や助産師に調査依頼を行った。協力が得られた保健師と助産師に半構造的面接を行った。研究データは逐語録を作成し、コード化した。コードに共通して見出される意味内容を、サブカテゴリー、そしてカテゴリーとして統合した。これの分析過程は、NVivo12 for Windows Plus を用いて行った。また、行政機関で使用しているアンケート用紙やスクリーニング項目についても内容分析を行った。

### 4. 研究成果

研究協力者は 9 名で、全て女性で、母子保健に従属した年数は 2 ~ 30 年であった。一人 30 分 ~ 90 分のインタビューを実施した。

#### 1) インタビュー調査結果

分析の結果、(1)社会的ハイリスク妊婦の特徴 (2)社会的ハイリスク妊婦の特定方法 (3)社会的ハイリスク妊婦特定の困難さ (4)支援に向けた看護職の活動 (5)実際の妊婦への支援内容 (6)支援を行う上での困難さが抽出された。

### (1) 社会的ハイリスク妊婦の特徴

行政機関で働く看護職は社会的ハイリスク母子の特徴として【養育環境が整わない】と【養育力に課題がある】の2つのカテゴリが抽出された。

【養育環境が整わない】では更に「家族背景が複雑でサポートが薄い」「経済的問題を抱えている」の2つのサブカテゴリが抽出された。また、【養育力に課題がある】は「未成年や知的能力に問題のある人」「虐待をしている」「成育に問題がある」「妊娠を受容できない」の4つのサブカテゴリから構成され、保健師・助産師は、親自身に問題があり、子育てに必要な能力や技術が乏しいことが、養育に影響を及ぼす点からハイリスクとして支援が必要と考えていた。

### (2) 社会的ハイリスク妊婦の特定方法

社会的ハイリスクの妊婦を特定し早期支援を開始するために、すべての行政機関で妊婦にスクリーニングのためのアンケートを実施しており、その後その調査用紙に基づいて個人面談を行っていた。行政機関で働く看護職は、社会的ハイリスク妊婦を特定するための方法として【既存のスクリーニングの評価基準】、【他部署へ情報収集】、【仲間や上司と面談や訪問結果を検討】、【外見や言動など調査項目以外でも評価】の4つのカテゴリが抽出された。

【既存のスクリーニングの評価基準】では「グレーの妊婦もハイリスクと登録」「調査用紙の記入したものにに基づき面談」「項目の中でもハイリスクと考えられる項目を重点的に面談」の3つのサブカテゴリからなり、【他部署と連携して情報収集】については「妊娠前から支援している部署へ情報収集」「妊婦の情報が記載されている書類やデータから情報収集」の2つのサブカテゴリ、【仲間や上司と面談内容や訪問結果を共有】は「多職種との事例検討会」「可視化して仲間と情報を共有」の2つのサブカテゴリ、【外見や言動など調査項目以外でも評価】では「外見や話し方」「拒否的な態度」「上の子どもとのかかわり」「申請者が母親以外の場合」「付き添い夫や実母の態度」「夫婦での会話の様子」の6つのサブカテゴリが抽出された。ハイリスクの特定にスクリーニング項目だけでなく、外見や夫との関係など経験から培われた洞察力で情報を入手しながら特定をしていた。このため、スクリーニング項目以外でも気になる点は報告書に記載し、スクリーニングから漏れないよう様々な角度から母子とその家族の観察を行っていた。

### (3) 社会的ハイリスク妊婦特定の困難さ

【人材不足による支援への限界】、【対応する職員の能力に左右】、【保健師に母子の情報が入らない】、【スクリーニングシステムが不十分】、【スクリーニング用紙だけでは限界】の5つのカテゴリからなる。

【人材不足による支援への限界】では「スクリーニング用紙の使用によりリスクと判定される人が増加」「支援の時間に限界がある」「個人面談の時間が限られる」の3つのサブカテゴリ、【対応する職員の能力に左右】では「尋問にならないよう情報を聞き出す」「対応している人の個人的判断にも左右される」の2つのサブカテゴリ、【保健師に母子の情報が入らない】では「転入などで情報が途切れている人」「他部署が離れているため情報があまりこない」「飛び込み出産など行政機関に来ない母子」の3つのサブカテゴリ、【スクリーニングシステムが不十分】では「評価機能が不十分」「調査用紙だけでは判定できないケース」「調査用紙の項目に当てはまらない」「点数に反映されない事例」「調査票が保健師の判断と異なるため判定が低くなる」の5つのサブカテゴリ、【スクリーニング用紙だけでは限界】では「妊娠が経過してから不安や悩みを抱えていた」「最初のスクリーニングで問題ないと判断されてしまい虐待を疑う事例が後でわかる」の2つのサブカテゴリからなった。

#### (4) 支援に向けた看護職の活動

ハイリスクやグレーゾーンの母子も含め、支援に向けて看護職は【正確な情報の収集】【他部署や地域の医療機関と連携して情報共有】【支援マニュアルの作成】を行っていた。気になる母子は追跡していく姿勢で関わっており、必要時には他部署や医療機関と連携した対応を行っていた。【正確な情報の収集】では「正確な情報収集のため一つ一つ丁寧に調査書を聞く」「病院へ情報収集」「出産後も継続して情報を収集」の3つのサブカテゴリー、【他部署や地域の医療機関と連携して情報共有】では「他部署と情報共有」「医療機関と事例検討」の2つのカテゴリー【支援マニュアルの作成】では「保健師と二人体制で訪問」「特定妊婦虐待支援マニュアル」の2つのカテゴリからなり、地域によっては既にマニュアルが作成されており、そのマニュアルに沿って支援を行っていた。年度ごとにマニュアルを見直し、修正しながら活用していた。

#### (5) 実際の支援内容

看護職は実際リスクのある母子には【繋がりのある支援を心がけた関わり】【訪問を継続し支援を提供】【各々の母子に応じた支援をコーディネート】【外国人母子のための通訳機能の導入】【予防に向けた取り組み】を行っていた。

【繋がりのある支援を心がけた関わり】では「解決に向けて一緒に考える姿勢」「保健師との繋がりを伝える」「行政主催のイベントに誘う」の3つのサブカテゴリー、【各々の母子に応じた支援をコーディネート】では「産前産後と支援をコーディネート」「他部署と連携」の2つのカテゴリ【訪問を継続し支援を提供】「産後も訪問継続」「妊娠前に訪問」の2つのカテゴリ【外国人母子のための通訳機能の導入】では「通訳機能のITを取り入れる」「外国人は言葉の機能さえあれば問題ない人も多い」の2つのカテゴリ【予防に向けた取り組み】として「母親学級や両親学級で伝えていく」「予防の目的で若年の親への支援を開始」の2つのカテゴリからなる。行政で働く医療者は、ハイリスク母子への支援だけでなく、ハイリスクにならないよう予防的な関わりも行っていた。長期的な視野で母子の生活を見据えて予防的関わりを行っていた。

#### (6) 支援を行う上での困難さ

看護職は支援にむけて母子とその家族へ関わりたいと考えているが、支援を行う上で困難さを抱えていた。【行政に情報が入らない】【社会的要因】【行政の支援システムが弊害】【マンパワー不足】の4つのカテゴリが抽出された。【行政に情報が入らない】では「医療機関からの情報提供が得られない」「飛び込み出産など社会との繋がりの乏しい人」の2つのサブカテゴリー【社会的要因】では「支援が必要な母子が増加し対応に苦慮」「社会的背景の複雑な人が増加」「様々な国の外国人への対応の難しさ」の3つのサブカテゴリー【行政の支援システムが弊害】では「地域で行政の意向が異なる」「行政システムにより連絡体制が異なる」「縦割りになり情報がつながらない」の3つのサブカテゴリー【マンパワー不足】では「起きていない事例より現在起きている事例への支援に重点」「支援の時間に限界がある」の2つのサブカテゴリーからなる。

#### 2) スクリーニングシート項目の内容分析の結果

5つの行政機関で使用されているスクリーニングシート項目について内容分析を行った結果、共通する項目と地域独自の項目があった。

共通している項目は、母親の情報は9項目、父親の情報は1項目抽出された。母親の情報「家族構成」「飲酒喫煙有無」「現在の体調」「これまでの妊娠出産歴(流産や中絶歴含む)」「妊娠が分かった時の気持ち」「相談や支援者の存在」「現在困っていること」「妊娠中の異常や合併症の有無」「病歴」が項目になっていた。父親の情報としては「同居家族の喫煙」のみであった。

地域独自の項目として「不妊治療の有無」「年収」「BMI」「朝食摂取状況」「寝られないイライラの有無」「子どものころの愛情の有無」「赤ちゃんへの思い」などが挙げられた。

今回の研究結果から標準化した社会的ハイリスク妊婦を特定するための指標の必要性和妊娠早期からの母親と父親への支援の必要性及び社会的ハイリスク予防に向けた支援の必要性そして、支援体制を見直し支援充実に向けた人員やシステムを再構築する必要性が示された。

全ての研究協力機関で自治体独自のスクリーニングシートを活用して社会的ハイリスク妊婦の早期発見に努めていた。シートを活用により、担当者が変わっても標準化した視点で情報収集を行い、個別性のある支援を提供できるよう取り組んでいた。この指標によりハイリスクやグレーゾーンの母子を発見しやすくなる利点はあったが、シートの内容は不十分であり、不足している項目もあることから保健師や助産師はそれぞれの経験や知識などに基づくアセスメントも加えて判定を行っていた。行政機関によりスクリーニングシートの内容が異なり、地域の特性も踏まえた内容が含まれていた。しかし、スクリーニングシートのみでは特定が難しく、支援にあたる保健師や助産師の経験値や観察点が大きく影響していた。地域の特性を活かしつつもリスクを特定するための標準化した指標の作成は必要と考える。

また、少子化により、これから親になる世代が子どもと接する機会が乏しく、家庭環境が養育能力に大きく影響するようになっている。母親や父親自身の養育に対する認識や能力が乏しい場合、母子の健康に悪影響を及ぼす可能性が高くなる。母親が子どもに意識を向け、養育に必要な能力を身に着けるためには長期的な支援が必要となる。妊娠早期から継続的に関わることで認識を変化させ必要な能力を獲得できる可能性はある。特に、母親への支援は近年、早期発見早期支援につながっているが、父親への支援が不十分で、スクリーニングにも父親の背景に関する情報が乏しい。2019年の全国の警察が摘発した児童虐待件数は過去最多を更新し、加害者の71.5%は父親であることから、母親だけでなく、支援に必要な父親を特定し早期から介入を行う必要がある。支援に必要な父親を特定するためのアセスメントシートの開発が必要と考える。

更に、社会の変化と共に、家庭環境が複雑な親も多く、生活力、養育力の乏しい大人が子どもを産み育てることになることから、社会全体で、将来親になる若者を育てるために必要な知識や能力を身に着けられるよう予防に向けた取り組みも必要である。行政機関だけでなく、教育機関や職場の協力も必要であり、子どもの産み育てやすい環境を作ると同時に、子どものころから、生活力、養育力を身に着けられるよう支援することが必要と考える。また、家族計画に向けた教育の充実と避妊のための必要な経済的支援など、個人だけに産む生まないという判断をすべて委ねるのではなく、医療機関と連携した社会的支援も必要と考える。

最後に、今回の調査で、社会的に支援の必要な母子とその家族は増加していく中、行政機関で働く保健師助産師の役割はますます重要になってくる。しかし、マンパワー不足が常態化していた中で、支援する母子が増えており、充実した支援の提供が難しい状況にある。また、縦割りの部署となり、複雑な背景を持つ家族への支援が、様々な部署で行われていることから、情報がつながらず支援が途絶えてしまう可能性も示唆された。妊産婦と子どもへの支援をコーディネートする人材を増やし、他部署と連携しながら包括的な支援が提供できるよう、行政機関での支援体制の見直しは必要と考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 水野真希
2. 発表標題 行政機関で働く看護職による社会的ハイリスク妊婦の特定と支援の実際
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	飯田 千香子  (Iida Chikako)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------